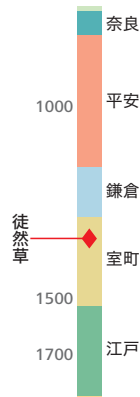


徒然草

兼好法師



ある者、小野道風の書ける

ある者、¹小野道風の書ける和漢朗詠集²とて持ちたりけるを、ある人、「御相³伝、⁴浮けることには侍らじなれども、四条大納言撰ばれたるものを、道風書かんこと、時代やたがひ侍らん。おぼつかなくこそ。」と言ひければ、「さ候へばこそ、世にありがたきものには侍りけれ。」とて、いよいよ秘蔵^{ひさう}しけり。

(第八八段)

5

¹ 小野道風 八九四年〜九六六年。名は「みちかぜ」とも。平安中期の書家。藤原佐理・藤原行成とともに、「三蹟」と称された。

² 和漢朗詠集 藤原公任撰。朗誦するのに適した漢詩・和歌の名句を選んで集めた詩文集。白居易の作を中心に漢詩句・和歌を収める。朗詠に用いられるほか、書道の手本となるなど、基本的な教養として享受され、日本文化史に与えた影響は大きい。

³ 相伝 先祖からの言い伝え。

⁴ 四条大納言 藤原公任（九六六〜一〇四一）。平安中期の歌人。権大納言に任じられ、四条の南に邸があった。漢詩・和歌・管弦の才に優れる。